



下肢静脈瘤

人は血管とともに老いるといわれます。「平均寿命が延び、健康寿命を維持するためにはまず、自分の血管の状態を知ることが大切」と血管の専門医、福井大祐医師（「さくら血管病クリニック」院長）は話します。今回は、日本人の約9%にあるといわれる下肢静脈瘤について聞きました。

だるさ・浮腫み・こむら返り・かゆみ・湿疹・皮膚炎・痛みなどを伴う下肢の瘤

見た目や症状が気になったら

Q 70歳の女性です。最近ふくらはぎの血管が浮き出てきて心配です。

下肢静脈瘤には、伏在型（ふくざいがた）、側枝型（そくしがた）、網目状、くもの巣状の4タイプがあり、見た目で見分かります=右頁の写真。正常な静脈血は逆流を防ぐ弁により、心臓に向かって一方通行で流れています。長時間の立ち仕事・体質・妊娠出産などの影響で、弁がゆるんで壊れると下肢に静脈圧の負担がかかる状態になり、静脈瘤の原因となります=右頁の図。命に関わることはほとんどありません。

「足の血管が目立つ」「足がむくむ」「足首などの色素沈着」「こむら返りを起こしやすい」などが気づくポイントです。

Q そのままにしておくとうどうなりますか？

自然に治ることはありません。日常生活に支障がなければ必ずしも治療が必要となるわけではありません。ご自身が一番良く分かっていますが、一般に年齢と共に年々増悪していきます。静脈瘤の程度や症状・重症度はさまざまです。気になる症状があれば、

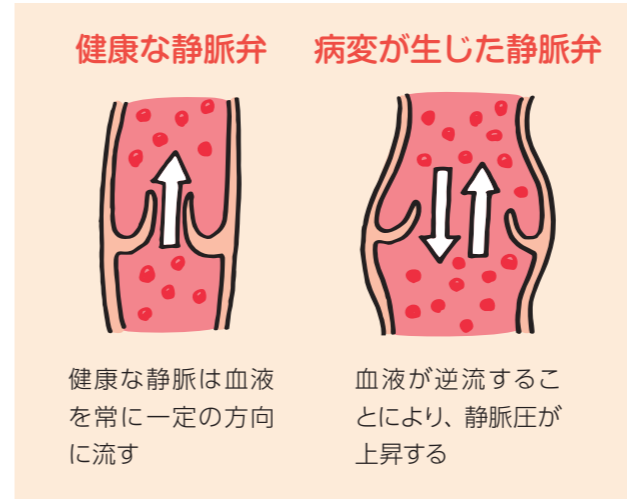
状態を知るために、一度受診することをおすすめします。そのままでもいいのか、どういう治療があるのかを知ることも大切です。

Q どのような検査方法がありますか？

静脈瘤の原因となる逆流は、さまざまなパターンがあり、専門的な超音波検査による正確な評価を丁寧に行うことがとても重要です。当院の場合、①超音波（エコー）検査をしながら専門の臨床検査技師が静脈の状態について説明②専門医師から病態及び治療について説明③専門看護師からの日常生活指導。この3ステップでお話をします。

Q 治療にはどんな方法がありますか？

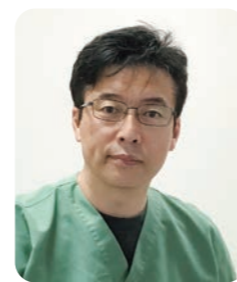
2011年から負担の少ない血管内治療が保険適応となり、日帰り治療が主流となりました。伏在型の場合、「血管内治療+2mmの針穴からの瘤切除」が当院の基本術式で、所要時間は内容や瘤の範囲により15分から50分程度です。麻酔の工夫により痛みはほとん



どなく、傷痕もほとんど残りません。血管内治療には、レーザーや高周波による「血管内焼灼術」や医療用接着剤（グルー）で血管をふさぐ「血管内塞栓術」（2019年から保険適応）があります。また、静脈に薬を注射して固める「フォーム硬化療法」や瘤切除を含めた「外科的治療」などがあります。これらの治療を組み合わせることにより、患者さんそれぞれの状態やご希望に合った合理的な治療法をご提案しています。以前に治療を受けた再発についても昔より負担の少ない追加治療が可能となっております。



下肢静脈瘤の4タイプ



福井 大祐
(ふくい・だいすけ)

「さくら血管病クリニック」（松本インターより車で3分、☎0263-47-1500）院長。信州大学医学部卒。信州大学医学部心臓血管外科准教授を経て2018年に現在のクリニックを開院後、約1,000例の静脈瘤治療を手掛けてきた。下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医・指導医、外科専門医・指導医、脈管専門医・指導医、心臓血管外科専門医・修練指導者、血管外科学会認定血管内治療医、救急専門医。

また、「保存的治療」として弾性ストッキングなどによる圧迫療法があり、当院ではストッキングコンダクターが指導させていただいております。治療法は常に進歩しています。治療選択肢も多くなっており、施設により治療法が違う場合も少なくありません。

Q 下肢静脈瘤を進行させないために自分でできることはありますか？

下肢静脈瘤の予防は難しいですが、下肢の症状を放置しないことが大切です。だるさ・おもさ・疲れやすさ・こむら返り・浮腫みなどの症状の軽減のため、長く歩く時や立ち仕事の時は弾性ストッキングを活用するのも良いと思います。治療は、体の負担が少なく年齢に関係なく行えます。実際80歳、90歳で治療された方から「同じ治療をするなら早くやって楽になった方が良かった」といわれます。気になった時に、受診することをおすすめします。

